

日本民教連通信

№51



おじいちゃん

ズミ花が

はにかまゆ。

真波

目次

- 一. 第61回東北民教研
宮城「茂庭」集会中間集会の報告
 1. 特別分科会
「3.11と子ども・学校・教育」
 2. (資料) 宮城県の震災遺児教
- 二. 日本民教連
2011夏季全国集会一覧
- 三. 生活と地域に根ざす山形の「北方性教育」を再び
**一刺持・田中両先生の
20年忌を偲ぶつとー**

第61回 東北民教研宮城「茂庭」集会 中間集会の報告

2012.5.12～13 宮城勤労福祉会館「茂庭荘」

3.11から1年経過しました。いまだ避難を余儀なくされている方が32万人。復興はもちろん復旧すら進んでいません。そのことが子ども、教育に計り知れない影響を与えています。しかし、被災地の教師達は地域の人達と力を合わせ、学校の復旧、復興は地域の復旧、復興の「要」と位置づけて懸命に学校教育の再興に取り組んでいます。

特別分科会

3・11と

子ども・学校・教育

当然のことながら多くの課題が提示された。

1. 緊急避難所としての学校の機能・組織体制。
2. 災害毎の緊急避難のあり方と訓練のあり方。
子どもの保護者への引き渡し方。
3. 被災した子どものケアの仕方。
4. 災害後の学校再開（復旧）・正常化への取り組み方。
5. 学校統廃合の問題。
6. 3・11前の教育と3・11後の教育
（放射線学習や災害学習のあり方も含めて）
7. 学校の復興と地域の復興。
（フクシマ原発事故による問題は、拡大、深化、複雑化、長期化しており、課題の整理は出来ません。）

被災した子どものケアのために

学校ではゆつたりとした生活を

被災した子ども達は、大人以上に大きなショックをうけています。さらに、被災後の避難生活（特に避難所・仮設住宅）はさまざまな忍耐を

子どもにしているため強いストレスを持つ。阪神・淡路大震災を経験した教師は、講習会でストレス解消のために「学校ではゆったりした時間を持つこと。昼寝の時間なども考えていい。」また、「子どもの話をじっくり聞いてあげるのがいい」とアドバイスした。大人達が生活再建のためかけずり回り、子どもと向き合えるゆとりがないとき、学校は子どものストレスを理解するところでなければならぬ。

しかし、教育委員会は「学校の再開、正常化」を学校現場に押しつけ、教室の整備（中には体育館を段ボールで間仕切りしただけの教室も）や教材の配置も出来ないまま、「授業時間の確保」を迫った。校長は「教委の学校訪問を受け容れることが出来るようにすることが学校の正常化」と子どもの実態を考えない経営を行っている。

学校は、子どもから出発するところなのに上からの指示で出発している。校長は教育者と言うより官僚の立場に立っている。

3. 11前の教育や学校に戻すことが「正常化」ではない

県教委は、「学校正常化」と共に「学力向上」を昨年以上に押しつけてきている（宮城・福島）。

ここで言う正常化とは、学校教育を3・11前に戻せと言う要請であり、人材育成のための競争主義を配置させよと言うことです。小さい内から競争をさせ、学校をふるい落す装置に戻せと言う要求です。しかし、

・原発事故を防げなかった学力 ・安全神話のからくりを見抜けなかった学力 ・大震災から生活、地域を守れなかった学力 ・事故を起こしても謝罪できない学力 ・補償しようとしぬ学力 ・人権より企業利益を優先する学力 ・原発事故や大震災からの被害を防げない政治を許してきた学力・・・

でいいのだろうか。

教育や学校の「正常化」とは、3/11前の教育をしつかり検証し、新しい教育を創造し定着させることだろう。

子どもは大人より一歩前をすすむ。

社会参加によつて「自己肯定観」を強くする

― 大震災を表現させることについて ―

震災をうけた子どもに作文を書かせることの是非も討論された。

目の前で家が流される、身内の人が亡くなる、友達が突然にいなくなる・・・「こんな過酷なことを思い出せていいのだろうか」「子どものこと考えたら、とても書かせ

る要求は出来ない」等々、子どもを思いやり気遣つて、書かせることを躊躇せざるを得ない、それでもその時のことを表現させることは出来るのか、という問題も出された。

子どもは大人が考えているより一歩前を歩むことが出来るという。悲嘆にくれながらも次のことを考える頼もしさを持っている。残された土台の上に「新しい家を建てるから『復興』というのだね」といつて親に再建を決意させる。高台に集団移転したときの写真真を描いてみせる。

震災の作文から演劇にまで進めた実践者は、教師は子どもへの気遣いだけでなく、子どもの前に進む早さ、力強さを信頼すべきだ、と発言している。

書かせることは、子どもの現状から次の世界に歩ませるきっかけともなる。地域復興の語らいや学びは子どもにとつて癒しになっている。壊滅した地域のために何もしないことの方が子どもにとって一番辛いことなのだ。

地域復興を政治権力に任せるのではなく、「まちづくり協議会」に子どもを参加させ夢を語らせる、町の復興のために堰の泥上げに参加する、家庭の生活再生のため汗を流すなど、子どもが社会参加することとで子どもの「自己肯定」親が強まった等々が話し合われた。



子どもは地域復興の宝 学校の再開と地域の復興は一体 懸念される学校統廃合

子どもは地域復興の主体者である。子どもが集まり、子どもが育つ学校の再建なくして地域の復興はありえない。地域の復興は一〇年、二〇年と息の長いものになる。そのことを考えれば、今の子ども達こそが復興の主体者だ。学校が復興して若者が定住し、若者の力で地域は復興する。

そのための学力はもちろん「村を捨てる学力ではなく、育てる学力」でなければならぬ。地域復興の出発は学校の再生であり、学校の再生は地域の復興を促進する。

しかし、懸念されることがある。学校の統廃合である。

宮城では、今回の災害で仕事を失ったり、休業を余儀なくされた人は十一万二〇〇〇人に達している（宮城県発表）。加えて、親や家を失ったり親の失業で就学支援は増大した。石巻市では四四％の五四三一人、女川町では五一・四％の三二二人となっている。復興が具体的に進まず、やむなく他出せざるを得ない世帯があり児童生徒は減少している。

石巻市などは、震災前から児童数の減少で小学校の統廃合が検討されていたがここに来て、学校を高台へ移転させることを口実に小・中学校を統合する、高校を減らすなどの計画がもたらされている。

学校は、地域のシンボルであるのに、それを災害をきっかけに奪い取ってしまい安上がり行政を行おうというのだ。まさに「危機便乗型資本主義」を押しつけようとしている。

福島の場合は、また違った懸念がある。

昨年の一二月に政府は「原発の冷温停止状態の達成宣言」を行った。マスコミはこれを「事故収束宣言」と報道した。そして、今年の四月に年間放射線

量毎に「帰還困難」「居住制限」「避難指示解除準備」の三区を設定し、住民の帰還を即した。

「避難指示解除準備」をうけた自治体が自治体再生のために、まず計画したのは学校再開である。学校の再開しない町に人は帰ってこないからである。

ここでの学校の役割は「人を寄せ集める」ことである。しかし、除染一つとっても何も解決していない、子どもの安全レベルも示されていない、そんな危険な地域に学校再開を目論むのは、「子どもから出発する学校」には成り得ない。

そして、政府がはやばやと安全宣言をした裏には「事故を早く過去のものにしよう」「原発問題は福島という限定された地域の問題」に矮小化しようと言うねらいも潜む。子どもや学校を世論誘導の道具に利用しようとしているのであり許されることではない。

地震と津波の災害復興は見通しを立てることができず、原発事故災害復興は見通しができないどころか、災害は風評被害をはじめ放射能汚染、地域や自治体の分解等々拡大しつつあるだ。



宮城県の震災遺児の数

—沿岸部中心27市町から—

(1) 一人親の震災遺児は711人(2011年8月2日現在)

- 東日本大震災で両親のどちらかが死亡、または行方不明となった18歳未満の維持は宮城県内で711人に上ることが8月2日判明した。さらに増える可能性がある。

(市町村別)

石巻市	214人
仙台市	122人
気仙沼市	99人
東松島市	50人
南三陸町	45人
その他	181人
合計	711人

(学齢別)

未就学児	45人
小学生	255人
中学生	180人
高校生	231人
合計	711人

(2) 東日本大震災で両親を失った震災遺児は111人(2011年6月28日現在)

- 7市5町で、111人が震災で両親を失った。

(市町村別)

石巻市	42人
名取市	19人
気仙沼市	16人
女川町	8人
仙台市	6人
その他	20人
合計	111人

(学齢別)

未就学乳幼児	6人
小学生	46人
中学生	23人
高校生	36人
合計	111人

*その後7月27日現在6名増えて117人となった。

(3) 専門家の見解—政治・行政が対策を—

- 遺児問題に詳しい福田義也筑波大名誉教授(社会学)の話。

「今回の震災遺児は交通遺児や病気遺児と違い、自宅が全壊するなど住宅問題が深刻。地域が崩壊し、仕事がないなど親の環境も厳しい。政治・行政がしっかりと取り組む問題だ。」(河北新報2011年6月28日号)

(4) 震災遺児、小学生が3割—あしなが育英会調査—

- 災害や病気等で親(両親または片親)を失った遺児らの支援団体「あしなが育英会」(東京)は、東日本大震災で親が死亡・行方不明になるなどした震災遺児の被災状況を発表した。(2011年6月27日現在)

(学齢別)

未就学児	137人	12.2%
小学生	346人	30.9%
中学生	242人	21.6%
高校生	252人	22.5%
大学生や専門学校生など	143人	12.8%
合計	1120人	100%

《日本民教連二〇一二年夏季全国集会一覽》

団体名	日時・場所	大会テーマ・講演・分科会などおもな内容
美術教育 研究「新 しい絵の 会」	八月二日(木) ～四日(土) 奈良教育大 学と附属小 学校	<p>「どの子にも表現する力と生きるよろこびを」、記念講演(佐藤勝彦・作家)、基調提案と作品で語る文化行事(全体会)。楽しい実技Ⅰ・Ⅱ(二十二講座)。発達別十分科会(幼小中高大、障害児)。課題別十講座。作品を見る会。交流会、懇親会。チャリティ展。書籍・教材販売等。全国の実践から学びます。</p> <p>http://www.2u.biglobe.ne.jp/~atarashi/atarashi/ (奈良県と奈良市教育委員会後援)</p>
音楽教育 の会	八月三日(金) ～五日(日) 広島サンブ ラザホール	<p>「音楽の喜び 見つけた」(広島県・広島市及び両教育委員会後援)</p> <p>共同研究者 丸山亜季(作曲家)・志村泉(ピアニスト)</p> <p>保育、授業の実践テープを聴き、音楽で子どもが育つ事実について話し合う。ピアノの音楽を聴き、感じたままに体で表現する「リズム表現」、「歌う活動」を通して音楽する力を高める。共同研究者の演奏、参加者による音楽会あり。</p>
科学教育 研究協議 会	8月3日(金) ～5日(日) 米子コンベ ンションセ ンター	<p>第59回全国研究大会鳥取大会「自然科学を すべての国民のものに」 子どもも教師もわくわくする授業を」 「記念講演」 「水鳥公園周辺の自然」 水鳥公園指導員</p> <p>「中海の形成」 鳥取大学教授 「分科会」：提案者の実践報告による研究協議 「科学お楽しみ広場」：自然科学を楽しむ実験・観察・ものづくりや理科の教材教具の紹介・販売など、提案者の得意な分野テーマで行う「授業づくり講座」</p>
NPO法 人・家庭 科教育研 究者連盟	七月二八日 (土)～二九日 (日) グランシッ プ静岡	<p>「今こそひろげよう いのちとくらしを守る家庭科」</p> <p>記念講演・広瀬隆さん(ジャーナリスト) 「福島原発事故と放射能」(仮題)。</p> <p>テーマ別分科会①子どもたちと放射能をどう学ぶか②東日本大震災・巨大津波と子ども・学校・地域の課題③教材としての教科書をどのように使うか④中山間地における有機農業の新しいビジネスモデル⑤家庭科で何をどう教えるか⑥実習</p>

参加費・宿泊費・申込問合せ先等

▼参加費六千円(「美術の教室」二冊二千円含) 一日三千円、学生無料。

▼申し込み トップツアー 大石

TEL 074-231-2371 ▼現地(附属小・山室)

E-mail: yamanuro@nara-edu.ac.jp

▼大会参加費八千円

(一日参加五千五百円) 学生五千円

▼宿泊費八千円前後

▼問合せ 山本純子

TEL & FAX 082127718555

参加費一般：5千円 会員4千円

鳥取県に在勤・在住の方：4千円

新規採用教員、臨時採用教員・学生：千円

宿泊は各自で。問合せ 085914

4-1629 藤本敏秀 夜9時まで

▼参加費・四千五百円(会員四千円、

学生二千円、一日のみ二千五百円)

▼連絡先・家教連事務局(勝俣)

TEL & FAX 042174913216

<p>学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会</p>	<p>八月四日(土)五日(日)エルおおきか(大阪市)</p> <p>「確かな学力と平和な未来をすべての子どもたちに」 一日目、読み書き計算入門・漢字・授業づくり(算・国)・学級づくり・など八講座。基調提案 深沢英雄(学力研究常任委員長)。実践報告「誰だって成長したいんだ!」森崎麻里(高知)。記念講演「続ける力」は誰にでも平等に与えられている」伊藤真氏(弁護士)。二日目、小学一年〜六年・中学高校・家庭教育の八分科会。</p>	<p>参加費教職員五〇〇〇円・父母・学生三〇〇〇円(会員割引有)。 申込問合せ先 日本旅行 06-631-0232 学力研 h p http://gakuryoku.info/ 事務局 079-425-5133</p>
<p>学校体育研究同志会(体育同志会)</p>	<p>八月四日(土)六日(日)愛知県立大学・愛知淑徳大学</p> <p>「文化の学びを生きる力に―すべての子どもたちに豊かな運動文化を―」 記念講演「学校を地域と人間の再興の場に」制野俊弘氏(宮城県東松島市立鳴瀬第二中学校教諭)▼分科会―障害児・幼年・小・中・高・バスケット・フラッグフット・サッカー・器械・舞踊・陸上・水泳・健康教育他。実技あり。▼後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育局委員会・長久手市教育局委員会</p>	<p>参加費・全日程九千円、二日参加七千円、一日参加四千円(学生全て半額)、宿泊紹介あり。問合せ・名鉄観光体育同志会デスク 0565-321313 体育同志会HP参照。</p>
<p>教育科学研究会(教科研)</p>	<p>八月九日(木)一日(土)法政大学市ヶ谷キャンパス</p> <p>△基調報告・佐藤広美教科研委員長△記念講演・アーサービナード氏 △教育問題フォーラム A子どもの生活世界と子どもの理解 B教育実践と教師・その困難と希望 C学校と学力・教育課程 D地域・労働・貧困と教育 E三・一と教育改革 △分科会①子どもの生活と文化②青年期教育③能力・発達・学習④身体と教育など</p>	<p>▼参加費・教師五千円(二日参加二千五百円)父母・学生・一般二千五百円(一日参加千五百円)▼連絡先教科研(火金の三時〜一七時) 03-3235-0522 E-mail kyokakken@gmail.com</p>
<p>技術教育研究会(技教研)</p>	<p>八月一日〜三日 和歌山市「シーサイド 観瀨」</p> <p>▼大会テーマ：国民のための技術・職業教育の創造を― ▼記念講演：中川淳 「鉄を通る」50年の歩み―大震災から学び自然への畏敬を深めて― ▼実技・理論講座(八講座) ▼内容別分科会 A小・中の技術教育 B高校・高専・高校後の技術・職業教育 ▼問題別分科会 C技術史 D諸外国 E発達 F授業づくり G障害児・者 ▼見学会：稲むらの火の館・島精機製作所見学</p>	<p>▼参加費五千円(会員外五千五百円)学生・退職者・海外参加者三千円)▼宿泊費二万七千円 ▼申込問合せ 090-4205-1823(長嶋) info@gtkyouken.com</p>
<p>漢字指導法研究会(国字研)</p>	<p>八月五日(日)東京・府中グリーンプラザ</p> <p>▼大会テーマ「学びあい、ことばの世界をひろげる漢字の学習」 ▼全体会 ①国語教育・漢字教育の情勢 ②漢字教育の基本提案(教育漢字精選六〇〇字案、一セット五過程方式の模擬授業) ▼分科会 小学校低学年、中学年、高学年、中学・高校、特別支援学級・精選と漢字教育運動</p>	<p>参加費二千円(振替口座〇〇二一〇・二一六六九八四、「国字研」名義)申込・問い合わせ 紺屋富夫 042-708-4535 E-mail: kanzisido@yahoo.co.jp</p>

子どもの遊びと手の労働研究会(手研)	八月四日(土) 八月六日(月) 和光小学校	△大会テーマ:子どもとともに遊びと手しことを一地域と関わりを持ちながら子どもたちの豊かな生活と学びをつくりだそう△四日、12・30、手作り市(大会参加者は、自由につくって遊べます。大人だけ)と子ども工作教室(15・00まで、子ども30円、小学生以上対象)を開催△特別報告「三・一一東日本大震災 遊び支援始めの一步(松下行則)」他。△五日は分科会。△六日は十四の実技講座。	▼参加費:一般六千円(新任者・退職者は割引)▼宿泊費一泊朝食付き一万円▼申し込み・連絡先:千葉大鈴木隆司 TEL 043-290-2500 五月一日(受付) tsuruki@faculty.chiba-u.jp
子どもの人権・自由と民主主義を守る全国協議会	八月二五日(土) 二七日(月) 和歌山県南紀方面	△大会テーマ 瀬戸の突端に立つて黒潮を見る―南方熊捕を訪ねて― △フィールドワーク 太地町(くじらの博物館)、串本町(瀬戸)、白浜町(南方熊捕記念館)、田辺町(南方熊捕顕彰館) △学習 くじらと熊捕	▼参加費二千円、宿泊費二万円、交通費・現地移動レンタカー代 ▼連絡先: TEL 04-2942-1594 E-mail: wildboar.ogishi@gmail.com
産業教育研究連盟	八月四日(土) 六日(月) 大東文化会館(東武練馬駅下車三分)	△大会テーマ「巧みな手、科学する頭、人と人を結ぶ心を育む技術教育・家庭科教育」 △分科会①生物育成②加工③情報・電気・機械④食物 △講演・野口勲(野口種苗研究所)他に、3・11後の教科教育・教育課程についての討論会。「教材教具発表会」「実技コーナー」あり。製作品は持ち帰りできる。 閉会後、見学会も予定。	▼全日程参加四万円(会員三万円、学生二千円・一日だけの参加二万円(会員一千元) 宿泊各自 ▼E-mail: kane@nbi.ocn.ne.jp ▼問合せ: 亀山俊平 TEL 042-731-5032
児童言語研究会(児言研)	江戸川区タワールホール 船堀・八月八日(土)・九日(月)	「ことばの力・生きる力を育てる国語の授業の創造」★8月8日(土) ○シンポジウム「わくわくどきどき説明文」五年実践ビデオ提案「イースター島にはなぜ森林がないのか」○基礎講座「領域別分科会」「文学」「中学文学」「説明文」「表現読み」「教材分析」「基礎理論」「ヴィゴツキー理論」「文法」○記念講演 香山リカ「香山リカ的教養論」★8月9日(月) 文学と説明文の学年別分科会	一般(二百五〇〇円・一日二五〇〇円) 会員は五〇〇円引き○学生別料金あり ★申し込みは七月二七日まで郵便振り込み0024019166173 山岡京子 TEL 047(447)5948
新英語教育研究会(新英研)	七月二八日(土) 三〇日(月) 安芸グラウンドホテル(廿日市)	△大会テーマ「すべての子どもに外国語を学ぶ喜びと平和な未来をひらく力を一令、広島・福島から発信する命種く英語教育と平和への展望」△記念講演: 秋葉忠利(元広島市長) △分科会: 自主教材、学力、文法、音声、小学校の英語活動、平和教育など一〇の常設分科会と小学校から大学までの授業実践講座、学習・発達障害、英語の歌など豊富なワークショップ、教材の交流会、書籍等販売会あり。	▼参加費・教員八千円、一般四千元、学生二千元 ▼問合せ先: 池田真澄(事務局長) TEL & FAX 042157619239
人間の歴史の授業を創る会	8月10日(土) 12日(月) 青森市浅虫温泉ホテル 秋田屋	「人間の歴史の授業や、文部科学省の教育を超える実践を創ろう」 研究会は10日午後11日午後まで、青森市浅虫温泉ホテル秋田屋(青い森鉄道浅虫温泉駅下車徒歩三分)にてフィールドワークは12日朝より午後まで。六ヶ所村の核燃料サイクル施設等を見学。案内と説明は六ヶ所村在住の菊川慶子さん	参加費、研究会四千元、フィールドワーク二千元 宿泊費 10、11日二泊で二二二五〇円(一泊だけでも可) 問い合わせ 神戸治男(鎌倉市山崎九四三) TEL & FAX 046714513990

社会教育 推進全国 協議会 (社全協)	8月25日(土) 14:00~8月 27日(月)正午 高知県立国民 文化ホール他	大会テーマ(仮案) 「地域主権改革」への対抗軸としての人間発達、共同発達の 地域づくり 分科会構成(案) ①子ども ②若者 ③障害者 ④平和 ⑤多文化共生・人権 ⑥環境 ⑦地域文化 ⑧地域づくりと学校づくり ⑨住民自治 ⑩公民館 ⑪図書館 ⑫博物館 ⑬職員 ⑭自治体改革と制度	参加費 5000円 学生3000円 申込み問い合わせ先 〒152-0518 東京 都新宿区築地町19番地 小野ビル2F Tel & Fax 03-3235-4143 (水 曜午後) e-mail:japan@nikky.com
数学教育 協議会 (数教協)	八月六日(月) ~八日(水) 霧島市市民 会館・ホテ ル京セラ他	テーマ「未来をひらく数学を」~深めよう広げよう~子どもとつくる「わくわく」 算数・数学の授業/記念講演・対談「科学と教育」そして、未来へ」益川敏英 氏(ノーベル物理学賞受賞者、京都大学名誉教授) / 実践交流会、特別支援小中 高21×2に分れ提案・討論/講座IⅡ・教具祭(紹介と制作)・公開授業・授業研究・ サロン(テーマいろいろあり)・自由交流・地区別交流・ポスター展	参加費六千円(学生三千円)早割あり 宿泊一泊二食 S 一二五〇〇円 T各一一五〇〇円 ・3~4人部屋 各一〇五〇〇円 申込送付先 Fax 0935-461743
数学教育 実践研究 会 (数実研)	八月四日 (土)・五日(日) 東京・国立 オリンピック センター	大会テーマ「子どもたちの生きる力となる算数・数学教育を創り出そう」 全体講演「大津波被害からの復興と岩手県釜石市の今」遠藤新氏(工学院大学) 記念講演「身のまわりの現象を数学の力で解明し、数学の有用性が味わえる授業を めざして」柏原広雄氏(尾道市立瀬戸田中学校) 実践交流分科会5 / 研究講座5 / 領域別実践講座4 / 授業づくりワークショップ3	参加費四千円(一日参加・学生は半額) 宿泊三千円要申込メ七月二十日 申込問合せ先メール gunitaken@yahoo.co.jp FAX 〇三二二九〇二二六六八藤波
全国学校 事務職員 制度研究 会	7月29日(日) ~31日(火) 高知市・三 翠園	子ども発、子ども行きしあわせの土台づくりを学校で 記念講演「福祉と教育が出会うところ(仮) 湯澤直美さん(立教大学教授) 分科会「子どもの学習権と就・修学保障」「学校予算と教育費」「学校環境と施設づ くり」「教職員の権利と学校事務」「学校づくりと子ども・地域」「学校事務職員制 度のあり方」	参加費 五千円(会員四千五百円) 宿泊費 一万二千円程度 問い合わせ先 三輪小学校 TEL 〇二六二一三三四一 二二五一 下平容子
全国高校 生活指導 研究協議 会 (高生研)	8月10日(金) ~12日(日) 東洋大学 (申請中)	第1日 全体会Ⅰ講演 田村哲樹氏(名古屋大学) 全体会Ⅱ「80年代以降の高生研の基調を振り返る」 第2日 一般分科会実践報告と分析 総会(新高生研の発足) 大交流会 第3日 問題別分科会「若者への就労支援」「福島からの問題提起」など別れのつどい	参加費 全日程参加6000円 1日 参加3000円 2日参加5000円 学生1000円 申込 片桐哲郎 katsurita@ab.cyberhome.ne.jpまで 氏名、所属、参加日を連絡。

<p>全国障害者問題研究会 (全障研)</p>	<p>広島市8月11日(土)全体会、12日(日)分科会・講座</p>	<p>テーマ つなげようみんなのねがい たしかめあおう人間の尊厳 ねづかせよう発達保障 きずこう平和でインクルーシブな社会 記念講演 「反核・平和運動ひとすじに」佐藤光雄(日本平和委員会) 学習講座 茂木俊彦(桜美林大学)、別府悦子(中部学院大学)、西原由美、浅井基文(政治学者)、鈴木勉(佛教大学) 乳幼児期、学齢期、青年・成人期など約50分科会</p>	<p>参加費 予約(一般6000円、学生・障害者4000円)、当日参加7000円 予約締切 7月13日(金) 保育 要予約 問い合わせ 全障研 03-5355-2601</p>
<p>全国商業教育研究協議会</p>	<p>8月5日(土) 7日(火) 代々木国立少年総合センター</p>	<p>大会テーマ「現代社会と向き合える商業教育の展開―新学習指導要領と経済教育の課題―」 記念講演「経済のグローバル化・情報化・金融化とは何か?社会がわかる、世界が見える経済教育」山田博文群馬大学教授 各地より研究レポート報告あり。中学、高校の社会科教育の方もぜひご参加を。</p>	<p>会員 一般五千円、学生三千円、一日参加二千円。宿泊費二千円。 申込先 03-39990-3493 Eメール qqlp37z9n@marble.ocn.ne.jp 真嶋宛</p>
<p>全国進路指導研究会 (全進研)</p>	<p>8月3日(金) 5日(日) 東京経済大学(東京都国分寺市)</p>	<p>テーマ:生きる・学ぶ・働く 内容:①記念講演 講師 尾木直樹(教育評論家・法政大学)「尾木ママを通して考える日本の教育と進路の課題」(仮題) ②特別企画 「全進研の50年から学ぶ」 ③学習会:Ⅰ. 小中学生の進路をひらく Ⅱ. 生きる力を培う青年期教育 Ⅲ. 働く・学ぶ・現代を生きる青年 ④シンポジウム:「ともに生きる・学ぶ・働く社会に変えるために」</p>	<p>参加費 一般6千円、会員5千円、学生・1日参加3千円、学生の1日参加2千円、中高生は無料。 申し込みは当日会場で、問い合わせ 090-9145-9892 全進研事務局</p>
<p>全国生活指導研究会 協議会</p>	<p>8月3日(金) 5日(日) 北海道定山溪ビューホテル</p>	<p>テーマ 「子どもの生活現実に応える集団づくりを創造しよう」 「ケアと自治をつなげる生活指導」 基調提案による全体会・実践講座・自主企画・現地の夕べ・若者の集い・一般分科会(レポート分析)・テーマ別分科会</p>	<p>参加費 全日程7000円(学生3000円) 1日参加3000円(学生1000円) 定山溪ビューホテル1泊11600円 大会担当 関口武 090-6432-6305 現地事務局・中村哲也 090-6354-3114</p>
<p>到達度評価研究会 (京都市)</p>	<p>7月27日(金)・28日(土) 京都教育文化センター</p>	<p>「到達度評価で 子どもの瞳かがやく授業を」 基調提案と参加者と共につくる到達度評価の授業づくり(全体会) / (小・低・高中学 & 高校発達別分科会) / 算数数学・国語・社会・理科等教科別分科会。 ホームページ http://toutatsudo.sitemix.jp 明日からの授業づくりには生きる報告・提案をさせていただきます。</p>	<p>参加費三千円・宿泊は各自でお願い (連絡先) 中村雅利 Tel & Fax 075-32-1478</p>

<p>全国農業教育研究会 (全農研)</p>	<p>8月4日(土) 6日(月) 茨城県石岡市国民宿舎つくばね</p>	<p>第四二回大会 地域からつくる自然共生型社会〜震災後の食と農と農業教育を考える 講演 原発事故後の農業の現状と課題 中村紀一(元茨城大学) シンポジウム 地域からつくる自然共生型社会〜やささと地区の取り組みから〜 分科会 技術と職業教育 環境と食農教育 学校と地域連携 小中学校における農の教育 見学会 八郷農協流通センター、朝日里山学校ほか</p>	<p>参加費4000円 七月二日 宿泊費(二泊五食) 25000円 内山雄平 新潟県村上市桃川八八五 電・F 〇一五四一六六一七七二三 you-hey@bg.wakvaku.com</p>
<p>全国保育問題研究会 協議会</p>	<p>八月二十五日(土)・二十六日(日) 神奈川</p>	<p>「あそびの楽しさが子どもを輝かせ、子どもを育てる」 ・一日目(ウイリング横浜) 実践提案二本・加用文男氏、安部富士男氏、川崎道夫氏他による「あそび」を語るリレートーク・ダンブ園長高田敏章氏による「あそび講座」。 ・二日目(金井幼稚園・安部幼稚園) 見学を兼ねて河園であそびましょう</p>	<p>参加費六五〇〇円(学生三五〇〇円) 申込み問い合わせ: 〇三二二八一八八〇二六 メール zenhonon@peace.ocn.ne.jp</p>
<p>全国民主主義教育研究会</p>	<p>7月29日(日) から31日(火) 東京筑波大学附属駒場 中等学校</p>	<p>学校・家庭・地域から主催者を育てる民主主義教育を確立しよう 記念講演(31日午前):湯浅 誠氏(自立生活サポートセンター・もやい) テーマ・日本社会と若者の未来。29日(日)午後全体会 基調報告、特別報告「福島原発事故と学校」(福島高教組・全民研全国委員齋藤 毅氏)。 30日(月)分科会 ①民主主義 ②憲法・平和 ③授業づくり ④自立と連帯。</p>	<p>参加費 一般 9,000円 保護者・学生 4,000円 申込み:(国際ツーリストビューロー) 担当 安野 谷岡 電 078-351-2110 メール ktb-info@jupiter.ocn.ne.jp</p>
<p>全国養護教諭サークル協議会</p>	<p>8月3日(金) 5日(日) 神奈川学園 中学校・高等学校</p>	<p>地域に根ざした健康教育の創造をめざして げんき号 出版進行!! (基調講演リレートーク)「いのちを守る」学校・地域と教育の未来 阿部志郎(神奈川県立保健福祉大学名誉学長) 数見隆生(東北福祉大学教授) 岩淵華枝(宮城県小学校養護教諭) 分科会①「からだの実態」など五分科会と自主講座七つ ②「健康認識を育てるために」</p>	<p>参加費 一般 9,000円 保護者・学生 4,000円 申込み:(国際ツーリストビューロー) 担当 安野 谷岡 電 078-351-2110 メール ktb-info@jupiter.ocn.ne.jp</p>
<p>全国幼年教育研究会 協議会</p>	<p>7月28日(土) 7月29日(日) みほの幼稚園</p>	<p>「いのちのはぐくみ いのちかがやき」 ——一緒に生きる ——一緒に育つ つなぐ未来へ—— 記念講演 世取山洋介(新潟大学准教授)「子どもの主体性に応答する保育・教育」 保育講座 ①玉井邦夫「気になる子」 ②垣内国光「新システムと保育情勢」 ③小林純子「わらべうた」</p>	<p>参加費一日三千元・二日五千元 学割一日二千元・二日四千元 締め切り 七月二十日まで 事務局 大石英子 TEL&F 〇四二一四七三二四八七六</p>

地域と教育の会	8月25日 (出)・26日(日) 京都市 京都教育文化センター	テーマ 地域の復興と教育を考える(仮) 講演内容 講演 境野健児 渋谷忠男 白井嘉一 森垣修 フィールドワーク 京都市内の町屋を調査する。 分科会 1 地域と教育 2 地域運動 3 食	参加費5000円 宿泊費1万円(2食付き) 交流会費2000円 連絡先 事務局長 毛呂敏弘 TEL&FAX 0772-721-0893 締切 8月15日
地理教育研究会	八月四日～六日山形県川西町農村環境改善センター	大会テーマ「子どもとともに地域に学ぶ地理教育の創造を」 一日目、シンポジウム「置賜地方の地域起こし」シンポジスト・原田俊二川西町町長、須藤清一・山形鉄道社長・赤湯温泉旅館「瀧波」社長、コメンテーター、長岡喬元山形新聞主筆、二日目(午前)四分科会、身近な地域・日本・世界・平和。(午後)小中高大分散会。三日目、現地見学(置賜地方の複合農家と農産加工)	▼大会参加費 一般四千元・退職者・学生二千円、シンポジウムのみ五百円 ▼現地見学参加費五千元 ▼宿泊及び大会参加申し込み先 事務局TEL 03-3237-7279
日本演劇教育連盟	山口県岩国市 8月3日(金)～5日(日) 全体会/4日 オンライン(2日)	大会テーマ「遊びから劇へつなげる感覚を育てる」 全体会(4日)は、小・高・教師の劇上演と講演(アーサーピナード氏)。 3・5日は体験講座/授業に活かす演劇教育・踊る・音やことばで遊ぶ・狂言・人形劇・舞台美術/他。ケネス・テイラー氏(英国ドラマ教育指導者)によるワークショップ(特別講座)開催。	講座参加費(半日)4000円予定 全体会・講座・講演のみ参加可。 フル参加・会員・学生・地域割引有。 電話 03-3983-6780 メール enkyoren@cranos.ocn.ne.jp
日本作文の会	8月3日(金)～5日(日) 岡山市民会館・関西高等学校	すべての子どもに生活に根ざした表現と生きる力を 記念講演「書くこと生きること」あさのあつこ 特別講演「作文教育の原点を求めて」菅原稔 岡山からの実践報告「豊かな人間性を育む作文教育」「子どもの学力と豊かなことば・表現」等21の分科会と「子どもの作品から学ぶ生活 綴方の基礎理論」等14の講座	前券 教員五〇〇〇円、父母・学生・退職教員・三〇〇〇円(当日五五〇〇円と三五〇〇円) 問合せ 日本作文の会事務所 TEL 〇三―三八一―一四九三
日本生活教育連盟	8月3日(金)～5日(日)石川県片山津「加賀観光ホテル」	大会テーマ「仲間とともに学び、希望を紡ぐ―自分を見つけ、地域に生きる―」 記念講演 畠山重篤氏(NPO法人「森は海の恋人」理事長) ☆生活教育講座(8講座) 模擬授業「命の授業」金森俊朗ほか ☆実技実践講座(6講座)「科学実験」「紙芝居」ほか ☆分科会(12分科会)「ことばと教育」「算数・数学」「生活科・総合学習」ほか 「保育室・子ども学校」有り	参加費 教職員6000円 父母3000円 学生2000円 申し込み・問い合わせ ホームページ http://nisseiren.jp/index.html

<p>日本文学 教育連盟</p> <p>二〇一二年 八月四日(土) 八月五日(日) 成蹊大学</p>	<p>第五回文学教育研究全国集会</p> <p>テーマ「ゆたかな感情とたしかな認識を育てる文学教育」 —心と心がひびきあう文学の授業—</p> <p>・第一日・入門講座・基調提案・記念講演(作家・宮川ひろ氏) ・第二日・学年別分科会・問題別分科会・集会全体会</p>	<p>参加費 五〇〇〇円(二日間)</p> <p>(会員・父母・学 四五〇〇円) 三〇〇〇円(会期中一日のみの参加者) (会員・一五〇〇円)</p> <p>問い合わせ・大会事務局・知念哲夫 TEL 048-2222-2015</p>
<p>日本文学 協会国語 教育部会</p> <p>8月11日(土) 12日(日) 三重大学</p>	<p>テーマ(語り) —ポスト・ポストモダンと文学教育の課題—</p> <p>11日 基調報告 相沢毅彦氏・講演 河合俊雄氏(京都大学 臨床心理学) 12日 実践報告・シンポジウム 文学の授業における〈物語〉と〈小説〉 —「ごんぎつね」と「おのたのぼうし」をめぐる— 橋本博孝(三重大学) 田中実(都留文科大) 佐藤学(東京大) 六分科会</p>	<p>参加費(二日間) 3000円 (学生2000円)</p> <p>問い合わせ 日本文学協会 TEL 03-3941-2740 メール bangaku1946@piano.ocn.ne.jp</p>
<p>人間と 性・教育 研究協議 会</p> <p>八月四日(土) 八月六日(日) 山口市湯田 温泉かめ福 山大学</p>	<p>テーマ「より豊かな性教育を求めて」現実をみつめ、子どもと共に未来をひらく」 一日目記念講演 増山均氏「日本社会における子ども観の転換—子どもへの『まなざし』を問い直す—」、トーク&トーク「共に生きる」出会い・つながり・支え合い」 パネリスト しのみ、中村佳紀、佐伯里英子各氏、 二日目模擬授業・分科会等三四本、三日目理論講座二一本 閉会行事</p>	<p>参加費(二日間) 一般一〇、五〇〇円、 学生三、〇〇〇円、会員九、五〇〇円他。 問合せ先 性教協 TEL 03-33379-7556 http://www.seikyokyo.org/ 参照</p>
<p>文学教育 研究者集 団</p> <p>八月五日(日) 八月七日(火) 八王子セミ ナーハウス</p>	<p>〈大会テーマ〉・人間合格の文学 井上ひさし／異端の文学系譜に立つて 五日・基調講演・DVD鑑賞(未定) 六日・井上ひさし「人間合格」 七日・ゼミ主宰 治「借別」(「人間合格」との関連を中心に、いくつかの章を取り 合せて検討/総括)</p>	<p>〈参加費+宿泊費〉約三万円 〈問い合わせ・申し込み先〉 〒162-0846 東京都品川区旗の台6-15-22 TEL&FAX 03-3788-1263 Email: bunkyoken@nifty.com</p>
<p>文芸教育 研究協議 会(文芸 研)</p> <p>8月10日(金) 12日(日) 京都テルサ ホール・同 志社女子大</p>	<p>「価値・意味の追求—虚構の方法に学ぶ—」記念講演Ⅰ・安斎育郎(立命館国際平 和ミュージアム名誉館長) 記念講演Ⅱ・長谷川義史(絵本作家) 基調講演・西郷竹 彦(文芸研会長) 詩の公開授業・西郷竹彦 対談・松崎正治(同志社女子大教授) &西郷竹彦 上方落語・桂蝶六 16分科会(1~6年 中学・高校説明文 詩 作 文 絵本 文芸学 ものの見方・考え方) 他</p>	<p>6500円(学生・退職教員は3500円) 申し込みは文芸研HPで可 問い合わせ先(大会事務局) 山中尊生 090-14760-3810</p>

美術教育を進める会	8月3日(金) 5日(日) 高知市・高知城ホール、太平洋学園	「子どもの感じる力・描く・つくるなど表現する活動を令、深く追求しよう」記念講演・田島征彦氏「「じごくのそうべえ」から「ななしのこんべさん」まで」基礎講座・新見俊昌氏「子どもの発達と描く活動」分科会(乳・幼児、小学校、思春期・青年期、特別支援教育)。実技まつり(さまざまな素材を使った教材)。絵本講座、水彩画・木版画入門講座。	一般6千円、会員5千円・学生千円。一日のみ参加3千円。宿泊は各自で願います。問い合わせ・事務局長・中村将裕 042・446・5459
民族舞踊教育研究会		昨年の震災で練習場所・宿泊施設等が流失、まだ使用出来る状況にありません。現地での実施を目指していた夏の集会なので、本年度も実施出来ません。	
一般社団法人 歴史教育者協議会 (歴教協)	八月三日(金) 習志野文化ホール 四日(土)・五日(日) 千葉大学	「地域と子どもに根ざす―大震災・原発・地域再生を見すえて」・三日、講演・高橋哲哉「フクシマから考える―歴史、現在、未来について」・四・五日、「前近代」近代「平和」「小」―「大」等二分科会・四日、地域に学ぶ集い・三日及六日、「歴博」「習志野騎兵連隊」「大逆事件」「関東大震災朝鮮人虐殺」「三番瀬」「東京湾岸古墳群」「成田空港」「佐原街並み」「館山戦跡」等現地見学ニニコース	参加費 会員・教員五五〇〇円(当日六〇〇〇円) 学生・市民二五〇〇円(当日二〇〇〇円) 申込・歴教協事務所(TEL〇三二二九九七―五七〇二)HPから検索可
表現よみ総合法教育研究会 (表教研)	八月四日(土) 府中グリーンプラザ本館(東京府中市)	大会テーマ 楽しく学ぶ表現よみ総合法Ⅱ ◎全体会→授業に生かせる「表現よみ総合法」(音読・朗読)の基本提案 ◎講師による表現よみの実際 ◎全体会→授業実践報告 分科会 ①表現よみ総合法の基礎講座 ②模擬授業 ③発声・発言の指導の実際 ④表現よみの実技	三〇〇〇円(会場費・資料代) 郵便振替・表現よみ総合法研究会 〇〇一五〇―九一七―一〇〇九一 連絡先 東京都日野市 田村利樹 電話 〇四二―一五八二―一八三〇



山形の教育の“源流”、 官制でない“土着”の教育、 だから力強い。

生活や地域の生産を教材の対象にし、学ぶ意欲をたかめ、生活意欲(夢、ロマン)を育む『北方性教育』を学校の現場へ。

こんなネライをこめた集会在、山形の北方性教育を継承・発展させた**剣持清一、田中新治**先生の20年忌を機会に開かれます。誘い合って参加しましょう。

とき 6月30日(土)13.30

ところ 上山 ホテル「ニュー村尾」

宿泊も可能です。夜の懇親会ではこころうち解けあって、日頃の実践や悩みを語らしましょう。

マンネリ化した授業を変えてみたいと思っている先生

両先生の思い出を語りたい方

是非ご参加ください。

くわしくは、同封のチラシを
参照してください。

申し込みは

山形県民教連事務局 (県教組山形地区支部書記局気付け)まで

TEL 023(631)2112

早坂まで

山形県民間教育研究団体連絡協議会機関誌「山形県民教連 通信」No 51

発行責任者 山形県民教連会長 早坂 久佳

2012.6.15

編集責任者 伊田 眞敏

事務局 山形市木の实町12-37 県教組山形地区支部書記局気付